

師弟
対談

Master and Pupil Talk

勝海舟はまさに
今の日本に求められる存在

Hattori Yukuo

服部ゆくお

東京都議会議員

×

Uzawa Yoshiyuki

鵜澤義行

日本大学名誉教授

今年3月、「勝海舟 戦わなかった英雄」（ごま書房新書）を出版された鵜澤義行先生

（日本大学名誉教授・法学博士・昭和17年法文学部法律学科卒業）。

平成15年7月21日に墨田区に完成した勝海舟の銅像建立にも尽力されました。

鵜澤先生の教え子で、学生時代から親交を深めている服部ゆくおさん

（東京都議会議員・昭和42年法学部管理行政学科卒業）と共に、

勝海舟にまつわる話や大学時代を振り返っていただきました。



勝海舟
戦わなかった英雄
鵜澤義行 著
ごま書房新社
1300円＋税



うざわ よしゆき

大正9年東京都出身。昭和17年日本大学法学部法律学科卒業。同33年法学部教授。同48年法学博士。同56年日本大学副総長。平成2年日本大学名誉教授。同6年勲三等旭日中綬章受章。元「勝海舟の銅像を建てる会」会長。主な著書に『青年と政治』『政治の生成と展開』『政治と政党』『日本政治の実力者たち（I）坂本龍馬』『日本の内閣（II）』『近代日本政治史（I・II）』『幕末政治思想の史的展開』などがある。

江戸を戦火から救った勝海舟の銅像がないのは寂しいと感じていました。

服部 勝海舟生誕180年を記念して平成15年に墨田区役所うるおい広場に建てられた銅像ですが、完成までにどのような苦労がありましたか？

鵜澤 銅像を建てる会の理事は、ほとんどが日本大学の卒業生。多くの皆さんが、本当に献身的にやってくれました。服部さんにも「勝海舟翁銅像建立東京都議会議員連盟」という会を作っていただき、多額の寄付を頂きました。すべての人の協力に感謝しています。苦労したこともありましたが、日大出身者が多かったのでざっくばらんに、活動できました。ほとんど知られてませんが、今の日本大学法学部1号館には、昔幕府の講武所がありました。そこに勝海舟をはじめ有名人が通っていました。実は本学の前身である日本法律学校の創始者、山田顕義の父・山田七兵衛頭行は長崎の海軍操練所で海舟に教わっていたんです。そこで同

志的な結合をした間柄なんです。海舟と日大は関わりがあるんですね。

服部 台東区の上野公園には西郷隆盛の銅像があるのに、江戸無血開城のもう一人の立て役者、勝海舟の銅像がないのは寂しいという思いを伝えるために、先生は全国各地で講演をされました。大変だったと思います。

鵜澤 講演会は全部で50カ所くらい。景気が悪いなかで寄付を集めるため、銅像建設に寄付した人が税法上優遇措置を受けられるようにしました。また、2万円以上寄付した人の名前を銅像に刻印することにした。これは全国探しても例がありません。最終的には全国から約1000人を超える人々の寄付が集まりました。

服部 私は鵜澤先生が伝道師になって、また勝海舟そのものになって人々に伝えたことが、大きな運動として広がったと

校 友 Master and Pupil Talk

師 弟

対 談

感じています。鵜澤先生だから実現できたと思います。

銅像が建立された平成15年は、江戸開府400年事業が始まった年でした。私も都議会自民党が石原都知事に提案して行った、江戸時代を再発見しようという運動です。その時期に銅像が完成したことが、とてもよいタイミングだったと思っています。

ところで、先生はもともと幕末の研究をされていましたが、なかでも勝海舟に興味を持ったきっかけは何だったんでしょうか？

鵜澤 終戦後、帰京して最初に足を運んだのが、東京を見渡せる西郷隆盛の銅像がある上野公園でした。そこからの眺めが全部焼け野原で、東京湾まで見渡せた。今では考えられないことでしょう。その時、もし江戸無血開城ができなかったら同じ光景が広がっていたのではないかと考えたのです。江戸を戦火から救った勝海舟の銅像がないのは寂しいと感じました。

服部 私が持つ勝海舟のイメージは、江戸っ子で粋。権力におもねることがない、凛とした生き方をした人物。私はこの魅力が先生と相通ずるところがあると感じています。海舟の魅力はどんな点でしょう。

鵜澤 いろいろありますが、まず第一に平和主義に徹した点。勝海舟の日常をみると、虫の居場所がなくなるからかわいそうだと、庭の雑草を刈らなかつた。虫さえ殺さなかつたんです。

第二に“大胆で細心”であること。例えば、江戸無血開城の前に海舟は江戸の有名な火消し・新門辰五郎に火をつけてくれと、頼んだ。驚いた辰五郎は「火消しに火をつけるとは何事だ。でも、面白い」と実行するんです。なぜそんな頼み事をしたかという、西郷軍は江戸に進撃してその後火の海にする作戦を考えていた。事前に火を付け、西郷の出ばなを挫こうとしたんだ。それと同時に、火を消す道具や水も用意した。徳川慶喜をイギリス船に乗せて亡命させ、江戸の女・子

供・老人を避難させる準備も整えた。さらにイギリス公使に「もし江戸城を攻めたなら万国公法に違反する。イギリスはだまってないぞ」と西郷の部下へ伝えるよう頼んだ。西郷は驚いて江戸無血開城せざるを得なくなった、というわけ。大胆かつ細やかな心で先を見通して、物事がその通りになる。今の政治家にはなかなかいない人材ですよ。

服部 勝海舟はまさに今の日本に求められる存在でもありますね。

NHK大河ドラマ『龍馬伝』も、先生の本を読んでから見ると2倍3倍奥が深くなります。坂本龍馬と勝海舟の関係についてお聞かせください。

鵜澤 龍馬が海舟を訪ねたとき、海舟が一言、「お前は私を殺しに来たんだろう。だが10分でいいから話を聞け。話を聞いてから殺してくれよ」と言った。そこで海舟は世界情勢の話をして、まず日本の海軍を作らねばならない、そして藩意識を捨て、日本という意識を持つことを強調した。龍馬は河田小龍という絵描きから海軍創設の話吹き込まれていたもので、その言葉に感激して即座に弟子入里したという。

海舟は攘夷の気持ちを持って開国するんだ、日本と朝鮮、中国が一緒になって欧米の侵略を防止するという三国同盟の提唱をした。これは今だって通用する東アジア同盟なんだよね。それを聞いてから海舟の言うままに龍馬が動くようになった。

服部 勝海舟の先見性、偉大さを感じます。私の住まいは台東区で天璋院篤姫の墓所がある寛永寺が近いんですが、篤姫と海舟は関わりがあったそうですね。

鵜澤 非常に親密な関係だったと言われています。二人で隅田川に出かけて、船上デートをしていたという話があります。海舟の影響で篤姫たち大奥の人々も庶民の質素なものを使うようになった。茶を飲むのに使っていた銀瓶を鉄瓶に代えたり、風呂上がりに着ていた羽二重を浴衣にしたり。海舟は「茶を飲むなら鉄瓶の方が美味しい、湯上がりは浴衣だと

はっとり ゆくお

昭和18年福岡県出身。同42年日本大学法学部管理行政学科卒業。ブリヂストンタイヤ東京販売株式会社勤務後、同44年山田久就（元国務大臣・駐ソ連大使）代議士秘書を務める。同50年台東区議会議員に。平成11年より東京都議会議員、現在4期目。学生時代は日本大学雄辨会法学部弁論部に所属。2年生からは鵜澤ゼミに所属し、政治学を学んだ。

江戸っ子で粋。勝海舟のイメージは先生と相通ずるところがあります。



鵜澤義行先生（現・日本大学名誉教授）と法学部校舎前で（後列中央、服部ゆくお氏）

涼しい」と実利を説いた。そうやって大奥の改革をそれとなくやらせてるんだよね。

——大学時代からのおつき合いというのですが、お互いの印象は？

鵜澤 学生時代から今も非常に謙虚でえらぶらないところは変わらないね。そして指導力があって、頼りがいのある学生だった。だから同僚が自然と付いてくる。あと、笑顔がいいよね。

私の引っ越しも学生を集めて手伝ってもらって、出版パーティでも何でもやってくれた。親戚以上の存在なんだよね。個人的には師弟というより“友達”のような感じです。

服部 先生にはゼミと雄辨会、両方でお世話になりました。学生時代は度々先生のご自宅にお邪魔して盃を傾け談論風発、肝胆相照らすこともできました。洒脱なお人柄で羽織の裏地にこだわったり、お酉様が縁起物の熊手を買う時に値



切ったら、買った後に御祝儀として渡すものだと、教わりました。今でも毎年12月にゼミの仲間が集まって先生を囲んでいます。こうして会を開いているゼミもあまりないと思いますが、先生がお元気だからできることで本当に有難いです。

——法学部校友会の後輩にメッセージを

服部 学生時代の同期との関係しかないという方が多いと思いますが、校友会では先輩後輩との絆を深めることができる。私の好きな言葉に「縁を結び 縁を尊び 縁に従う」という言葉があります。まさに校友会ではそれぞれの縁を大切に育てて、人間の幅ができる。後輩にももっと参加して欲しいです。

鵜澤 まず第一に健康に留意して、友達を大切にする。人間はひとりじゃ何もできません。校友会を通じて人の輪を大切にしたい。今の閉塞的な世の中で希望を失わないで欲しい。希望を捨てないのは青年の特権。年を重ねても青年であるという意志を持って欲しいですね。



『江戸無血開城』

1868年旧政府を代表する勝海舟は、江戸の薩摩藩邸に新政府軍参謀・西郷隆盛を訪ね、「国内は一揆や打ちこわしが起こっている。戦争は国を混乱させ、内戦の拡大が国家の独立を危くする」と説き、無血で江戸城を明け渡すことで両者の話し合いは合意に至った。こうして新政府軍と旧幕府軍との全面的な衝突は回避され、江戸は戦火を免れた。

『勝海舟銅像』

鵜澤先生を中心に「勝海舟の銅像を建てる会」を作って寄付を募り、墨田区吾妻橋1丁目の区役所うるおい広場に建てられ、平成15年7月21日に除幕式が行われた。像は身長158cmだった本人の約1.6倍の255cm。地元で育った彫刻家の木内礼智・東京家政大学名誉教授が制作。江戸城無血開城時の40代の海舟を描いた。隅田川の下流を指しているのは、大平洋から世界に続く道筋、日本の針路を示している。

